

会報

2003. 3. 31

第 34号

戦没船を記録する会

〒105-0014 東京都港区芝2-8-43 睦マンション206
Tel:03-3452-5085 FAX:03-3452-2711 郵便振替001606-719515

目次

第10年度を迎えて	1
第10年度活動方針(案)	
第9年度活動報告	2
オランダからの問い合わせ	3
えひめ丸事件が和解	4
年度別収支計算書	4

『ノーモア・センボツセン』 第10年度を迎えて

会長 川島 裕

2003年を迎えて早や2ヶ月が経過しました。年が改まるごとに、その年の平和と多幸を祈るのは世界万民共通の願いでありましょう。今年も例年のように、会員の皆さまのご多幸と世界の平和を心からお祈りしますとともに、どうか今年も会の活動をお支え下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

しかし、アメリカのブッシュ政権は、国連安保理の決議や世界の世論に関わりなく、イラク攻撃の準備を着々と進め、今や平和の危機は一触即発の状況にあると言っても過言ではありません。

私たちのこれまでの活動は、戦没船を記録することによって、その悲劇と6万余の戦没船員の海底からの悲痛な叫びを世に伝え、「ノーモア、ウォー」を訴えることがその目的でありました。そのことは今も変わることはなく、むしろその必要性の度合いは高まっていると言わざるをえないのであります。

去る3月1日、私は、会員の有志とともに、3・1ピキニ・デー献花墓参平和行進に参加し、雨の中、静岡県の焼津駅からピキニ環礁における水爆実験の犠牲となった第五福竜丸の無線長・久保山愛吉さんのお墓まで2.5キロを歩きました。全国から約17000人の人々が参加したと報告されています。

その日の午後には、焼津市の文化センターにおいて、「被災49周年 2003年3・1ピキニデー集会」が開催され、第五福竜丸、広島、長崎の被爆者、アメリカ、韓国、ロンゲラップの代表を含む約2000人の人々が集まり、核兵器廃絶と世界の平和について熱心な討議の後、

- 「ノーモア・ヒロシマ」
- 「ノーモア・ナガサキ」
- 「ノーモア・ヒバクシャ」
- 「ノーモア・ウォー」

などの集会アピールを全会一致で採択しました。

最後に、「We shall overcome」を大合唱して大きな盛り上がりの中に集会を終了しました。

ただ、私はもう一つ「ノーモア・センボツセン」を加えていただけたら、もっと感動は大きかったと思いつつながら帰途についたことです。

そして、3年8ヶ月の太平洋戦争の間に、漁船を含めて1万数千隻の戦没船と6万余の戦没船員があったことが、あまり世の中に知らされていないことにいささか淋しさを覚え、さらに年とともに世の関心が薄れて行くように思え、いらだちを覚えるものです。「ノーモア・センボツセン」の地道な活動を続けることは、私たちにとって大へん重要な使命であると考えます。

さて、こうした時代環境にあつて、10年度は戦没船に関する資料の整備になお一層つとめるとともに、例年のように各地の「平和のための戦争展」に協力するほか、宮城県の気仙沼市で、漁船を主体としたパネル展を、地元の人々と協力して開催することを計画しております。

これらの事業が成功裡に行われますよう、皆さまのお支えとご協力を、心からお願い申し上げます。

第10回定期総会告示

戦没船を記録する会 会長 川島 裕

会則の定めに従い、下記により第11回定期総会を開催いたします。

奮ってご参加ください。

記

日時 2003年4月26日(土)14時より
場所 東京浜松町海員会館 第1会議室
(港区海岸1-4-9 JR浜松町駅下車)
議題 第9年度活動報告・決算報告
第10年度活動方針案・予算案
その他

第10年度活動方針(案)

米・英対イラクの戦争や北朝鮮の動向によって、世界の平和と人類の安全が著しくおびやかされる状況にあり、特に海上の平和と安全の大きな脅威となっている。こうした状況に鑑みわれわれは、再び戦没船を生じさせないために、他の団体等とも協力して、海上の平和と安全を守る運動に、積極的に取り組まなければならない。

- 1、本会の作成した戦没船の写真や、関連資料をデータベース化して、インターネットなどを通じて、公開するための準備を進める。
- 2、戦没船アルフォト写真を点検、破損品を新替え、整理する。関連資料を整理し、展示用に項目別、年度、地域別などに仕分けする。また、従来掘り起こしが不十分であった漁船・機帆船関係の資料収集に努める。
- 3、各地のパネル展に協力すると共に、昨年出来なかった本会独自のパネル展の開催実現に努める。
- 4、戦没した船と海員の資料館の維持発展のために、海員組合と協力し引き続き努力する。
- 5、海上労働ネットワークをはじめ、関係友誼団体の活動に協力する。

第9年度活動報告

1、組織の状況

本会の会員で高齢化や病気を理由に退会する人が増えているが、運動の面、財政の面でも現状を維持するために努力が必要である。

今年3月末の会員数は正会員は75名、賛助会員は42名である。また、この1年間の収入は80万円余、支出は46万円余であった。

2、事業の内容

戦没船と戦没船員に関する資料の収集は、引き続き続けられているが、今年は初めて海外から、本会に対して直接、戦没船の動静に関する問い合わせがあった(会報34号所載)。関西支部で「傘捕船」の資料収集が続けられたが、戦没船員の追跡調査や戦没船の調査要請などは、減少の傾向にある。

また、有事法制反対やイラク戦争反対などの集会や行動、えひめ丸の原因究明と補償問題などの運動に、会員有志が積極的に参加している。

本会独自の戦没船パネル展は実現出来なかった。そのため、各地の「平和のための戦争展」などへの参加に留まった。主なものは次のとおり。

平和のための戦争展・横浜

『2002平和のための戦争展 IN よこはま みつめよう、語り合おう、戦争の過去といま』をテーマに、8月9日から11日の3日間、横浜駅西口の「かながわサポートセンター」で開催された。本会は95年以来毎回参加し、記録する会のコーナーには、会員有志が説明員として待機し、見学者に対応してきた。今年は入場署名者が1700人あり、署名しない人を含めると約5000人が参加したものと予想される。

平和のための埼玉の戦争展

「2002平和のための埼玉の戦争展」は、7月25日から29日までの5日間、浦和駅前の「コルソ」8階の展示場で開催された。戦没船を記録する会の参加は3回目になるが、「持込みグループ」として、会場の一角に次のようなテーマの展示を行った。

第2次世界大戦後の戦争・紛争・兵器による船舶、船員(日本人乗組)の被害 = 新企画 徴用漁船 -- 小さな小さな船までも = 新企画 対馬丸撃沈の大惨事
戦没者の多い船一覧表 戦没船アルフォト写真 = 54隻 攻撃を受ける日本商船 = 米軍撮影の写真10枚 日本商船隊の最後 = 大久保画伯の絵画写真10枚

夏休み中とあって、中・高校生や小学生の親子連れも多く、期間中の参観者は1万5千人に及んだ。

全日本海員組合大会のパネル展

全日本海員組合の定期全国大会が11月5日から4日間、晴海のホテル・マリナーズコート東京で開催され、本会はパネル展示場所の提供を受け、大戦後の商船・船員の戦争・紛争による被害一覧表、戦争と船員、などのテーマで展示を行った。

その他、静岡市、焼津市などの「平和のための戦争展」にも一部参加した。

3、会報の発行

戦没船を記録する会の会報は、第32号(02年6月20日) 第33号(02年12月10日) 第34号(03年3月31日)の3回の発行に留まった。

4、財政の状況

会費収入は正会員、賛助会員合わせて469,000円で、納入者数は正会員56名、賛助会員32名であった。昨年度は会費納入の呼び掛けの手違いで、例年に比べて極端に落ちこんだが、今年度に完全に回復することが出来なかった。収入総額としては大口の寄付金があったため、例年並の水準となった。

(収支報告は別掲)

オランダから問い合わせ

戦時捕虜輸送船の調査

去る1月、本会に一通の航空郵便が届いた。差出人はC.J. ホークストクさんで、1942年10月にシンガポールやインドネシアの間を航海していた。香港丸と富士丸の写真及び記録があったらコピーを送って欲しい、私の父親がどちらかの船に乗船していたので、という極めて簡単な内容であった。

調査依頼のあった香港丸は傘捕船(2793総トン)で、昭和18年6月21日に五島列島沖で被雷沈没、写真が無いこと。富士丸は2隻あり、日本郵船の富士丸(9130総トン)は昭和18年10月27日、基隆から門司に向かう途中、奄美大島付近で被雷沈没、写真あり。関西汽船の富士丸(703総トン)は昭和20年3月25日、開聞岳南方5キロで被雷沈没、写真あり。などが判明した。

しかし、本会で調査できるのは主に戦没船の記録で、それらの船がある時期にどこの航海に従事していたか等は調査が困難であるため、これらの情報と2隻の写真をお送りしたところ、次のような返事をいただいたので、以下ご紹介する。

戦没船は丸腰で戦争に協力させられ、戦争の被害をもろに受けた、と言うだけでは済まされない状況でもある。

戦没船を記録する会

会長 川島 裕 船長 殿

2003年2月22日

デルザイルにて

C.J. ホークストク

親愛なる川島様

2003年2月15日付のお手紙で、2隻の富士丸の写真と、両船及び香港丸に関する情報をお送り下さいまして、まことに有難うございました。

私の父についてお尋ねがありましたのでお答えします。

父は、当年96歳で今も元気にしています。父は戦時抽虜として、香港丸で1500人の人々とともに、インドネシアのバタピア(今のジャカルタ)からシンガポールに連れて来られました。

1942(昭和17)年10月7日か8日にバタピアを出航し、シンガポールに着いたのは同年10月12日でした。其処から、父は、初めは列車で、その後は門司丸で、ビルマに輸送されました。それは、日本軍のためのビルマのタンブザヤットからタイのノンブラグクまでの、全長416キロに及ぶ泰緬鉄道建設のために働かせるためでした。

門司丸は日明丸とともに、1943(昭和18)年1月13日か14日にペナンを出航し、同年1月17日か18日にビルマのモールメンに着きました。

日明丸は同年1月15日、米軍機の爆撃で沈没しました。

全部で6万人の戦時捕虜が泰緬鉄道建設のために働かなければなりません。その上、25万人のインドネシアの人々が強制労働させられましたが、彼らの多くは死亡しました。

富士丸もこの時、ジャカルタからシンガポールまで、戦時捕虜を輸送しております。しかし、2隻の富士丸のうち、どちらの富士丸だったか、私にはわかりません。あるいは両方だったかも知れません。

敬具



戦没船員調査 = 滋賀県

本籍地	A	B	BC	C	合計
大津市	12	7	8		27
長浜市	3		1		4
彦根市	4	5	3	1	13
伊香郡	6	6	3	1	16
犬上郡	4	2	7	1	14
愛知郡	7	4	5		16
蒲生郡	13	10	6		29
神崎郡	11	2	4		17
栗太郡	7	3	7	1	18
甲賀郡	18	7	9		34
坂田郡	5	5	7		17
滋賀郡	6	2	5		13
高島郡	11	2	10		23
東浅井郡	6	3	7		16
野州郡	8	3	6		17
本籍不明	2				2
合計	123	61	88	4	276

えひめ丸事件 補償問題は和解

事故原因・再発防止の追及継続

1、その後の経緯概要

本会々報第31号発行(2002年4月)以降、4月には、えひめ丸の船体補償で和解成立。5月には110の団体と1500人の個人による約400万円に及ぶカンパにより、愛媛新聞に「ワルド元米原潜艦長の来日・謝罪」を求める意見広告掲載。

10月には米海軍が東京で事故原因の説明会を開催＝体験搭乗中の民間人の影響を認める。

11月には、被害者33人の補償問題が和解。12月には、2遺族の要請に応じワルド元米原潜艦長が来日、救出された生徒4人と寺田裕介君の両親に会って涙ながらに直接謝罪。

2003年1月には2遺族が補償問題で和解、(被害者35人への賠償総額1650万ドル(19億6000万円)。2月には「Remember えひめ丸＝報告とまとめのつどい」が東京で開かれた。

2、事故原因

当然のことながら「事故の真相・原因の究明」は被害者家族らが求めた主要点であった。

米海軍査問会議は衝突の原因として、

* ワルド原潜艦長＝帰港の急ぎすぎ、安全上の手順省略、運航の標準手順・命令規定の無視、5分間での浮上命令(不合理)、浮上不足での潜望鏡による簡略化した探知。

* 民間人の搭乗＝乗員相互・乗員と機器間の連絡妨害、民間人接待の優先、民間人の体験行為(操舵宇多操作等)の不適切。これらに対する監督者の監督・方針の欠如。

* 無資格ソナー要員の就労、司令室での乗員同士の連絡不十分、潜望鏡でとらえにくい海面状況。一等とした。

しかし、主要部分は民間人搭乗の体験航海にあるとの見方が多く、ワルド元艦長の弁護士も「体験航海がなければ事故は起きなかった。査問会議で体験航海を検証しなかったのは失敗」と明言した。

また、潜望鏡探知時にえひめ丸が明らかに探知されていたとの映像もあり、えひめ丸動向の把握ミスではなく、えひめ丸を標的とした何らかの訓練模擬をしていたのではないかと見方もある。

3、再発防止対策

体験航海が事故の遠因と認めながらも、その中止は認めず、体験航海全般の改善・整備にすり替えている。また、米海軍は訓練海域の見直し等一応の防止策を示したが、枝葉的なものが多く納得できるも

のではない。

被害者側からは、原潜の民間航路海域での訓練禁止 民間人搭乗の体験航海の中止 原潜への海面上での航行ルール適用 訓練場所・時間・内容の事前公表 民間人の被害発生事故では一般裁判を - 等が提起されている。

4、事故原因と再発防止の追及継続

日昇丸事件(1981年4月、米原潜が日昇丸に衝突、日昇丸が沈没、2名が死亡)の原因究明と再発防止策が徹底的になされていたならば、えひめ丸事件は起きなかったのではないかと、えひめ丸事件に関ったものは、この種事件を3度起こさせない義務があるとの強い訴えがなされた。

被害者弁護団は、事故原因に関する問題点をまとめ米運輸安全委員会(NTSB)に提出するなど、米公的機関を通じて再発防止を働きかけることを表明した。

2月27日の集会アピールは「事件は終わっていない、えひめ丸事件を忘れることなく、海の安全のための闘いはこれからも続くことを多くの方に訴えたい」とした。

なお、この闘いと運動は本会の目的にも合致するものとして、本会有志も「被害者家族を励ます会」へ加入、カンパ・署名・諸集会への参加等を極力行なった。(2003年3月 栗原)

年度別収支計算書

戦没船を記録する会

基本会計

科目	00.4 -01.3	01.4 -02.3	02.4 -03.3
繰越金	149,000	150,000	150,000
入会金	1,000		
合計	150,000	150,000	150,000

一般会計

会費	468,000	78,000	348,000
賛助会費	217,000	24,000	127,000
寄付金	173,000	21,000	331,800
事業収入	115,220	31,675	2,000
雑収入	26,711	6,233	63
収入計	1,179,931	160,908	808,863
前年繰越	977,615	554,494	184,568
総計	2,157,546	715,402	993,431
通信費	125,820	88,810	46,890
会議費	32,550	44,550	29,950
交通費	2,360		2,600
印刷費	141,560	38,300	34,880
事業費	968,042	73,748	49,319
事務所費	240,000	240,000	240,000
雑費	92,720	45,426	61,566
支出計	1,603,052	530,834	465,205
繰越金	554,494	184,568	527,226